

コロナ禍での授業及び行事等の改善 —公立中学校における ICT を活用した取組例—

相良 誠司

福岡女学院大学 sagara@fukujo.ac.jp

要約：新型コロナウイルス感染症拡大により、2020年3月から、全国の学校が一斉休校となった。ICTの整備が不十分な公立学校の多くは、子どもの学びを止めないための手立てを講じようにも講じることができない状況が続いた。また、学校再開後も、感染症拡大防止のさまざまな対策を講じなくてはならないことから、行事等の実施に支障が生じた。

コロナ禍の中、福岡市立青葉中学校は、いち早くICT環境を整備し活用して、授業及び行事等の改善を図ってきた。まず、授業では、校内適応指導教室に通う不登校傾向の生徒へオンライン授業を実施した。また、行事では、ICTを活用して「高等学校遠隔説明会」「生徒会立会演説会・生徒会役員任命式・生徒総会」「ダンスコンテスト・ミュージカルコンサート（合唱）」等を改善した。さらには、PTA活動においても、ICTを活用して講演会を開催した。

本稿では、コロナ禍の中で、公立中学校である福岡市立青葉中学校が、試行錯誤しながらも、ICTを活用して授業及び行事等の改善を図った取組例を報告する。

キーワード

オンライン授業
不登校
適応指導教室
中高連携
PTA活動

1. 問題の背景と発表の趣旨

コロナ禍にあって、全国の学校はこれまで経験したことのない困難に直面した。2020年3月～5月頃までの全国一斉休校期間はもとより、学校が再開されてからも新型コロナウイルス感染症拡大防止の面から「三密を避ける」等々の対応・配慮を余儀なくされた。どの学校も、児童生徒の学びを止めないための授業や心身の健やかな成長を図る行事等、状況に応じて臨機応変な対応を模索してきた。加えてPTA活動も、さまざまな制約がある中で新たな工夫が求められた。

これまで福岡市立学校は、政令指定都市の中でICT環境の整備が最も遅れており¹、他の先進地域や私立の小中学校とは異なり、児童生徒一人一台の端末はまったく整っていない状況であった。そのような状況の中で、福岡市立青葉中学校では、生徒のために工夫・改善できることはないかを模索し、試行錯誤しながらも、先駆けてICTを活用した取組を具体化してきた。

ここでは、公立中学校である本校が、ICTを活用して、コロナ禍での授業及び行事等の改善を図った取組例を報告する。

2. 取組の内容

(1) オンライン授業の試み

1) 福岡市立青葉中学校の概要とオンライン授業を実施するまでの経緯

本校は、福岡県福岡市の東部、三日月山の麓に位置する中学校である。1990年福岡市立多々良中央中学校から分離開校し、2019年度30周年を迎えた。校訓は、「崇きをめざせ」で、高い理想を掲げてそれに向かって進んでほしいという願いが込められている。2020年度は、各学年3クラス及び特別支援学級1クラスで、合計355名（2020年12月18日現在）の生徒が在籍している。



写真1 福岡市立青葉中学校

本校では、2019年度後半からオンライン学習に着手した。学習管理システムを提供しているClassi（クラッシー）と共同研究の協定を締結し、教員と生徒がタブレットやスマートフォンを介して学習の指示や記録をやりとりできる仕組みを段階的に導入しはじめた。とはいえ、2019年度の後半時点のICT環境は、パソコン教室以外で学習指導に活用できるパソコンが4台、Wi-Fiルーターが1台あるのみだった。学習管理システムについても、はじめての校内研修会を実施した程度で、ICT活用にたけた教員1～2名が試行的に操作をはじめたという状況であった。生徒のほうも、家庭にWi-Fi環境がある一部の者が手探りで利用している段階であった。

2020年2月末、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言が発せられ、3月2日から全国すべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の一斉休校措置について要請があり、その要請に応じて福岡市立学校も一斉休校となった。

その際、校長（筆者）が、注目したのは以下の二つの文部科学省の通知である。

ひとつは、2020年4月21日付「新型コロナウイルス感染症対策のために小学校、中学校、高等学校において臨時休業を行う場合の学習の保障等について」である。それには、「ウ ICTの最大限の活用」の欄に、以下のように記載されていた。「学校設置者や各学校の平常時における一律の各種ICT活用ルールにとらわれることなく、……家庭のパソコンやタブレット、スマートフォン等の活用、学校の端末の持ち帰りなど、ICT環境の積極的な活用に向け、あらゆる工夫をすること」。もうひとつは、2020年5月27日付「新型コロナウイルス感染症に対応した小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における教育活動の再開後の児童生徒に対する生徒指導上の留意事項について」である。それには、児童生徒の不登校について、不登校生徒の「学習に対する不安を軽減すること」と記載されていた。これらの通知および新型コロナウイルス感染症拡大に係る一斉休校の状況を踏まえ、本校がどのような取組を推進したのか言及する。特にここでは、オンライン授業を実施するまでの経緯について述べる。

一斉休校となった2020年度4月に、校長は全校生徒を対象としたリアルタイム（同期型）のオンライン学習を導入するという方針を立て、校内研究テーマを「ICTを活用した遠隔反転学習の試みーZoomを利用したリアルタイム学習とClassiを利用したオンデマンド学習の効果的な連携を通してー」に変更した。

まず、必要になったのが、インカメラ付きパソコンとインターネット接続環境だった。4月下旬にはIT企業関係の地域住民から協力をとりつけ、インカメラ付きパソコン10台（全クラス分）の貸与を受けた。また、共同研究の提携をしていたClassi（クラッシー）から、LTE接続が可能なAndroidタブレット30台の貸与を受けた。LTEタブレットのテザリングを介して、なんとかパソコンをインターネットに接続することができた。その後、学校のほうで、googleアカウントの取得及びZoomの設定を完了した。5月上旬には、教員8割の在宅勤務が求められたが、その時には、教員の朝の打ち合わせをZoomで実施した。単なる打ち合わせにとどまらず、Zoomのさまざまな機能を学ぶ研修にもなった。

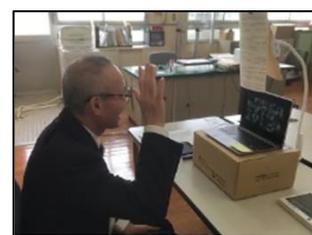


写真2 Zoomでの朝の打合せ

5月上旬から中旬にかけて、家庭にWi-Fi環境がない生徒に、学校のLTEタブレットを貸与した。また、家庭の端末にZoomアプリをダウンロードする方法や使用方法を説明するプリントを全家庭に配付した。その後、Zoom接続のテストを学年単位（計3回）と学級単位（計16回）で行い、いよいよ各教科のオンライン授業を試行しようとしていたところ、福岡市では5月21日より学校が再開となった。

学校は再開したものの、本校生徒の中には、不登校傾向の生徒、所属学級に入ることができず校内適応指導教室（通称：ステップルーム）に登校し学習する生徒が一定数いた。そこで、構築したシステムを利用して、不登校傾向の生徒

へオンライン授業を届けることができないかと考えたのである。

2) 福岡市の不登校児童生徒等への支援

福岡市立学校の数は、小学校 144 校、中学校 69 校、高等学校 4 校、特別支援学校 8 校、合計 225 校である。児童生徒数は約 12 万 4 千人であり、2019 年度の長期欠席児童生徒は約 3800 人、そのうち不登校児童生徒は約 2500 人を数える。

福岡市では、支援を必要とする子どもたちや家庭のために、福祉、心理、教育の面から多くの人員を配置している。心理の面では、スクールカウンセラーを、福祉の面では、スクールソーシャルワーカーを配置している。

特徴的なのが教育面である。教育面では、2つの離島を除く全中学校 67 校に、不登校対応の専属として、担任をもたない教員を「教育相談コーディネーター」として配置している²⁾。また、普通教室のひとつを、校内適応指導教室（通称：ステップルーム）と位置づけ、所属学級に入ることができない生徒や、不登校傾向の生徒に対して別室指導を行う教室として設置している。

校内適応指導教室の運営については、教育相談コーディネーターが中心となって行っている。教育相談コーディネーターの役割は、学習支援・家庭訪問など個に応じた支援をするとともに、小中連携の推進・教育相談体制の整備など、不登校の未然防止を行うことである。具体的には、校内適応指導教室の生活環境・学習環境を整え、不登校生徒及び不登校傾向の生徒一人一人へ個に応じた支援をしている。

不登校生徒にとって、自宅を出て登校し所属学級に入るとはとてもハードルが高く困難なことであると考えられる。なんとか学校に登校できた生徒の居場所として設置しているのが、校内適応指導教室である。ここでは、学習の他に、学級の友達と一緒に給食を食べたり昼休みを過ごしたりするなど、不登校傾向の生徒が学級に少しずつ適応していくための取組を進めている。また、座学の学習以外に体験的な活動も取り入れている。このように校内適応指導教室では、最終的に不登校傾向の生徒が所属学級に復帰できることをめざしている。

その校内適応指導教室に普通教室で行われている授業をオンラインで配信することを、先駆けてはじめてのが本校の取組である。

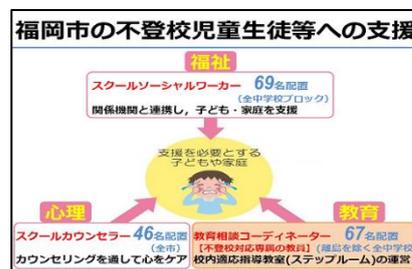


図1 福岡市不登校児童生徒支援体制



図2 教育相談コーディネーターの役割

3) 校内適応指導教室へのオンライン授業

2019 年度、本校の不登校生徒は、年度末に総計 25 名、全校生徒の 6.5% という状況であった。校内適応指導教室では、教育相談コーディネーターが、①安心して過ごせる居場所づくり、②遊びを通じた関係づくり、③一人一人に応じたスモールステップの積み重ね等のサポートをしていた。加えて、年度後半には、学校に配置されていた Wi-Fi ルーター 1 台、パソコン 2 台を設置し、NHK for school、スタディサプリ、Classi web 学習動画等を視聴可能にした。



写真3 教室での数学科授業

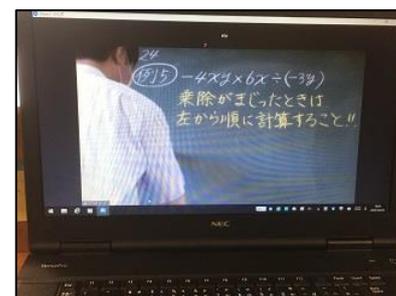


写真4 パソコンの画面

2020年度、先に述べたような準備を整え、6月1日より、校内適応指導教室に登校する2年生を対象に、英語科のオンライン授業をスタートし、8日より数学科も加えた。校内適応指導教室では、教育相談コーディネーターやスクールソーシャルワーカーがサポートをした。当初は、パソコンの起動も遅く、LTE タブレットのテザリングもままならぬ状況であったが、なんとか校内適応指導教室へオンライン授業を配信することができた。

なお、この取組については、2020年8月20日の「中央教育審議会初等中等教育分科会新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会」において、福岡市教育委員会教育長が福岡市の取組例として報告をした。また、新聞社等3刊、テレビ局2局で取り上げられ報道もされた。



写真5 ステップルームの様子

(2)行事の試み

福岡市では、5月21日に学校が再開されたものの、福岡市教育委員会からの指示で、当初は、学年別登校や学級を半分にかけての分散登校が実施された。また、これまでの臨時休校期間中の学習の遅れを取り戻すために、40分の6～7時間授業や土曜授業の実施、夏休みの圧縮等がなされることとなった。

生徒全員の一斉登校が始まってからも、生徒が参集して密な状態となる全校集会や学年集会は控えること、外部からの講師の招聘は控えることなどが求められた。また、部活動も当面は中止で、再開後も回数や時間を圧縮しての実施となった。さらに、中学校において例年5月末～6月に実施していた体育大会、7月に実施していた中総体・中文連の大会もすべて中止となった。このように、新型コロナウイルス感染症拡大防止を最優先に対応することを余儀なくされたため、平時の学校の状況とは様相が全く異なっていた。

1)高等学校遠隔説明会

新型コロナウイルス感染症拡大前に立てた年間行事計画では、3年生が1学期末に一日高校体験入学を実施する予定であった。コロナ禍の中この行事は実施できないものの、ICTを活用してそれに代わる取組ができないかと考えた。それが、ICT (Zoom) を活用した高等学校遠隔説明会である。

ICT (Zoom) を活用した高等学校遠隔説明会は、本校から高校に要請をして、県立A高校とは6月20日(土)に、私立B高校とは7月18日(土)に、私立C高校とは9月11日(金)に実施する運びとなった。

具体的には、高校と本校3学年教室のパソコンをZoomで接続し、映像・音声をテレビから出力した。時間は30分程度で、内容としては ①高校校長(副校長)の話、②高校広報担当教諭からの学校紹介(学習・行事・部活動・進路実績等)、③卒業生の話、④中学生からの質問というものである。なお、第2回目・第3回目については、保護者や不登校生徒へもミーティングID・パスワードを知らせ、自宅等からも視聴できるようにした。

第1回目の取組の後、福岡市教育委員会から、先の校内適応指導教室へのオンライン授業及びこのICT(Zoom)を利用した高等学校遠隔説明会を、福岡市全体に波及したいと



写真6 Zoomを利用した高等学校遠隔説明会の様子



写真7 全市研修会の様子

の要請を受けた。そこで、第2回目は、福岡市立中学校の情報教育担当の教員を対象に公開する「全市研修会」と並行して開催した。ICTを活用した授業及び行事の先進的な取組例として全市に発信することができた。

2)生徒会立会演説会・生徒会役員任命式・生徒総会

ほとんどの福岡市立中学校では、2学期に生徒会役員改選がある。例年であれば、生徒会役員改選に伴う生徒会立会演説会や生徒総会は、全校生徒が一堂に会して実施される。ところが、本年度は全校集会を開くことができないため、新たな方法を工夫する必要があった。

本年度の生徒会立会演説会は9月25日(金)、生徒会役員任命式は10月8日(木)、生徒総会は11月6日(金)に実施予定であった。時を同じくして、GI G Aスクール構想に伴い、福岡市立学校にもようやくICT環境が整備されつつあった。生徒一人一台の端末(クロームブック)及び高速Wi-Fiが9月に配備された。また、ソフト面も、Google Workspace for education やミライシード(ベネッセ)が提供された。しかし、一人一台の端末を使用するためには、一台一台の設定が必要であったし、基本的な使い方について一歩ずつ段階を踏んで生徒に指導する必要もあった。

結果的に、9月の生徒会立会演説会及び10月の生徒会役員任命式においては、これまでどおりL T Eを介してZoomで各教室に立候補者及び応援者の映像と演説を配信した。一方、11月の生徒総会では、高速Wi-Fiを介して、google meetで議案説明や議案審議を行った。

また、承認の決議についてはgoogle formを使って集計した。このように、まずは生徒会関係の行事においてICTを活用することによって、生徒たちも少しずつその有用性を実感できるようになった。



写真8 生徒会立会演説会の様子



写真9 生徒会役員任命式・生徒総会の様子

3)ダンスコンテスト・ミュージカルコンサート(合唱)

先に述べたように、コロナ禍の中、1学期は学校行事がことごとく中止となった。また、授業も小グループで対面して相互の考えを述べ合うといった協働的な学習を導入することもかなわず、知識伝達型の一斉授業がほとんどであった。学校に登校しているものの、生徒たちには、精神的な抑うつ状態が蔓延しつつあった。

2学期当初(8月末)、筆者は校長として、「コロナ対策を講じつつ、なんとか生徒が活性化する行事ができないものか」と保健体育科教員・音楽科教員に打診した。結果的に、生徒たちのことを思う両科教員の前向きな協力により、「ダンスコンテスト」が10月28日(水)29日(木)に、「ミュージカルコンサート(合唱)」が11月12日(木)に開催されることになった。

とはいえ、配慮しなければならないことが何点かあった。まず、保健体育科の授業と音楽科の授業を一時的に拡大するため、臨時的な時間割を設定する必要があった。特に、音楽科の授業は、コロナ感染防止の観点から広い場所(体育館)を確保しなければならなかった。また、ダンスコンテストもミュージカルコンサートも全校生徒を一堂に会して開催することができないため、学年単位での開催にせざるをえなかった。



写真10 YouTube限定公開をしたダンスコンテスト

さらに、保護者が参観することも控えなくてはならなかった。一方で、他学年の生徒や保護者にも発表の様子をぜひ視聴させたかった。さまざまな方法を考えた結果、ダンスコンテストもミュージカルコンサート（合唱）も、YouTubeの限定公開という方法をとることにした。「限定公開」とは、動画をアップした URL を知っている者だけが視聴できるという公開方法である。この方法は、生徒も保護者も繰り返し視聴できるというよさがあった。一方で、この URL が他校生徒等に広がるというリスクもあった。生徒や保護者には、「家族以外には URL を知らせないこと」「動画の写真を撮ったり録画したりして SNS にアップしないこと」を伝えるとともに、公開期間は3日間限定とし、その後は動画を削除することにした。また、ミュージカルコンサート（合唱）については、google meet を使ってリアルタイムで他学年の生徒に配信し視聴できるようにした。結果的に、大きなトラブルはなく、生徒や保護者から「何度も見ることができてよかった」「家族全員で楽しむことができた」等の感想をいただいた。ダンスコンテストやミュージカルコンサート（合唱）での生徒たちの澁刺とした動きや生き生きとした表情を目の当たりにして、ICT を活用しながらこれらの行事を開催してほんとうによかったと実感した。



写真 11 YouTube 限定公開をした合唱

(3)PTA 活動の試み

コロナ禍の中、学校の PTA 活動もさまざまな制約を受けた。2020 年度本校では、PTA 総会は、議案については紙上提案、承認については承認確認票提出という形をとった。実際、9 月頃までの PTA 活動はほとんど中止となり、実質的な取組はできていない状況であった。PTA 活動が制限される中、ICT を活用して一部の活動ができないかと PTA 会長以下役員の方々と案を練った。

ひとつは、公民館主催の「家庭教育講座」の配信である。例年は3学年の PTA 協力委員が夜に公民館に参集し受講していたのだが、本年度は、講師の了解をとった上で、講話とともに Zoom の共有機能を利用してプレゼン資料を提示しつつ保護者に配信するという試みをした。夜の忙しい時間帯であっても自宅で講話を視聴できたことから、大変好評であった。

もうひとつは、成人教育委員の取組である「人権教育講演会」の配信である。これも、例年 PTA 会員に広く呼びかけていたのだが、夜の講演会ということもあり、参加者が少数であった。本年度は、土曜の昼に、講話とともに google meet の共有機能を利用してプレゼン資料を提示しつつ保護者に配信した。対面でもオンラインでも参加可能としたため、双方での参加者数を合計すると例年の2倍程度に増えた。今後も、研修会や講演会等の PTA 活動については、ICT を活用しながら、可能な限り具現化を図っていきたいと考える。



写真 12 人権教育研修会 対面・オンライン同時開催

3. 成果と課題及び今後の展望

(1) 校内適応指導教室へのオンライン授業について

表 1 校内適応指導教室へのオンライン授業に対するインタビュー調査の主たる回答

教育相談コーディネーター	○生徒が学習するリズムをつくることができたことが、一番のメリットです。
校内適応指導教室の生徒	○授業の説明を受けることができうれしいです。 ○一緒に授業を受けている感覚があります。
授業を配信した教員	○リアルタイムで授業を受けられるだけでなく、既習内容のふり返りもできるので、とても効果的だと思います。
保護者	○学習に前向きに取り組むことができるようになってきていると思います。 ○子どもが、「ズームを通して、ステップルームの生徒にも声をかけてくださる先生がいる」と嬉しそうに言っていました。

表1のインタビュー調査の結果から分かるように、校内適応指導教室へのオンライン授業の最大の効果は、「不登校傾向の生徒が学習するリズムをつくれるようになり、結果的に学習に対するモチベーションが向上したこと」である。現に、取組後にすすんで所属学級に入り授業を受けた生徒も見られた。保護者もたいへん肯定的に受け止めてくださっていた。

課題としては、①オンライン授業を円滑に推進するためのICTハード面（端末及びWi-Fiネットワーク）の整備、②教員のICT活用能力のさらなる向上が挙げられる。

今後は、校内適応指導教室に通う生徒にとどまらず、ほとんど登校ができない不登校生徒を対象に、リアルタイム（同期型）・オンデマンド（非同期型）を組み合わせ、自宅にオンライン授業を配信することを試みたい。これについては、文部科学省・福岡市教育委員会から通知が出されている³。それらに従って対応していきたいと考えている。

(2) 高等学校遠隔説明会について

表2 高等学校遠隔説明会についての満足度（4件法）

趣旨 : 高等学校遠隔説明会についての満足度の検証
 対象 : 青葉中学校3学年生徒(120名)
 実施時期 : 2020年12月12日(土)
 実施方法 : google formへの回答
 回答率 : 80.8%

対象	回答	数	%
3年生	たいへん満足	58	59.8
	かなり満足	36	37.1
	あまり満足でない	2	2.0
	ぜんぜん満足でない	1	1.0

表3 高等学校遠隔説明会についての主たる感想

- この状況のなかで、工夫しているいろんなことをしてくださって嬉しかったです。進路についてしっかり考えることができた時間でした。
- コロナウイルスの予防をしつつ、しっかり学習できたので、とてもよかったです。特にC高校の面接練習は思っていたよりも、注意すべきことが多かったのととても印象に残っています。
- 音声だけでは聞き取れなかったところがあったが、画面共有をして文字情報も提示してくれたので理解することができた。そういう工夫はとてもいいなと思った。
- こんなことが学校でできるのかと驚きました。

調査対象3学年生徒の満足度は極めて高い結果であった。コロナ禍のため高等学校への一日体験入学を中止せざるをえない状況だったからこそ、高等学校遠隔説明会が生徒にとってたいへん有意義な機会となったと考えられる。また、ミーティングID・パスワードを不登校生徒や保護者に知らせ、自宅から参加できるようにしたことも好評であった。

課題としては、オンライン接続のハード面での整備があげられる。第1回目は、映像や音声が一時的に途切れたり乱れたりすることがあった。しかし、第2回目・第3回目は大きなトラブルもなくスムーズに実施できた。今後も、コロナ禍の中、外部の方を招聘して全校単位や学年単位での集会が設定しにくい場合であっても、今回のノウハウを生かして実施することができると思う。

(3) 生徒会立会演説会・生徒会役員任命式・生徒総会について

表4 生徒会立会演説会・生徒会役員任命式・生徒総会についての満足度（4件法）

趣旨：生徒会立会演説会・生徒会役員任命式・生徒総会についての満足度の検証
 対象：青葉中学校3学年生徒(120名)
 実施時期：2020年12月12日（土）
 実施方法：google form への回答
 回答率：80.8%

対象	回答	数	%
3年生	たいへん満足	48	49.5
	かなり満足	38	39.2
	あまり満足でない	9	9.3
	ぜんぜん満足でない	2	2.1

表5 生徒会立会演説会・生徒会役員任命式・生徒総会についての主たる感想

- 端末を有効活用した取組だと思います
- 体育館で集まるよりも、一人ひとりの顔や表情がはっきり見えたのでよかったです。
- たまに動画が止まることがあったけれど、三密を防いで立会演説会ができたのでいいと思いました。
- 臨場感は味わえなかったけれど、真剣に受けられる環境づくりができていた。

調査対象3学年生徒の満足度は極めて高い結果であった。生徒会立会演説会では、3年生の選挙管理委員が、ICTを的確に操作しながら進行をリードした。また、生徒会役員任命式では、旧生徒会役員たち（現3年生）が、モニター越しながら胸を打つ退任のあいさつをした。さらに、生徒総会では、本校のさらなる発展を後輩1・2年生に託す、最上級生としての建設的な意見や要望を語った。生徒総会の承認の決議では、google form を利用したため、瞬時に集計をすることができた。

課題としては、生徒がICTの機能を十分理解し、主体的・効果的に活用するスキルをいっそう高めていくことが挙げられる。今後は、議案書等のペーパーは印刷せず pdf ファイルにして一斉送信したり、チャット機能を利用して質問に対して即時に回答したりすることも可能となるであろう。

(4) ダンスコンテスト・ミュージカルコンサート（合唱）について

表6 ダンスコンテスト・ミュージカルコンサート（合唱）についての満足度（4件法）

趣旨：ダンスコンテスト・ミュージカルコンサート（合唱）についての満足度の検証
 対象：青葉中学校3学年生徒(120名)
 実施時期：2020年12月12日（土）
 実施方法：google form への回答
 回答率：80.8%

対象	回答	数	%
3年生	たいへん満足	65	67.0
	かなり満足	26	26.8
	あまり満足でない	5	5.2
	ぜんぜん満足でない	1	1.0

表7 ダンスコンテスト・ミュージカルコンサート（合唱）についての主たる感想

- 家族と一緒に見ることができて嬉しかった。
- ミュージカルでは、金賞を取れたので嬉しかった。体育館に聴衆があまりいなかったのも、いつもより声が大きく聞こえたと思う。
- 短期間しか公開されなかったけれど、全クラスの踊っている様子が見られたことはよかったと思った。
- 実際に目の前で見るにこしたことはないが、コロナ禍の状況で、このような形でみんなのダンスを視聴できよかった。
- 見たいときにいつでも何度でも見られてよかったです。自分のできてないところも分かるし、いろんな人のいいところも見つけられるのでとてもいいと思いました。
- 親が私達の様子を直接見ることができなかったけれど、動画で視聴できてよかったと思います。ただ画質が少し悪くてだれがだれかわからない感じだったのでそこを改善するといいいと思います。

調査対象 3 学年生徒の満足度は極めて高い結果であった。1 学期には、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中学校 3 年間の集大成ともいえる体育大会や中総体・中文連の大会等がすべて中止となった。3 年生として大変悔しい思いを抱いたであろうと推察される。形をかえてだが、最終学年の行事として「ダンスコンテスト」「ミュージカルコンサート（合唱）」を開催したことにより、3 年生に達成感や充実感を味わわせることができたと考える。加えて、ICT を活用した YouTube「限定公開」によって、保護者や後輩の 1・2 年生に自分たちの優れたパフォーマンスを表現できたことも高い満足度につながっていると考えられる。

課題としては、やはり映像等の個人情報の管理である。「家族以外には URL を知らせないこと」「動画の写真を撮ったり録画したりして SNS にアップしないこと」等の情報モラルを、全生徒に徹底させることが重要である。

(5)保護者からの評価について

表8 コロナ禍での ICT を活用した授業や行事の改善に関する満足度（6 件法）

趣旨 : コロナ禍での ICT を活用した授業や行事の改善に関する満足度の検証
 対象 : 青葉中学校全保護者(340 名)
 実施時期 : 2020 年 12 月 14 日（月）～16 日（水）
 実施方法 : google form への回答
 回答率 : 46.8%

対象	回答	数	%
保護者	たいへんそう思う	45	28.3
	かなりそう思う	57	35.8
	少しそう思う	35	22.0
	少しそう思わない	16	10.1
	あまりそう思わない	6	3.8
	ぜんぜんそう思わない	0	0.0

保護者については、実際に視聴していない方もいることから「オンラインによる PTA 講演会の配信」についての調査はしていない。しかしながら、「青葉中学校は、コロナ禍の中で、ICT を活用して授業や行事を改善しているか」という点については全保護者を対象に調査を行った。結果として、回答した保護者の 86.1% から肯定的な評価をいただいた。「コロナ禍の中で、先生方が、ICT を活用しながら、生徒たちにしっかりと教育活動をしてくださっていると思います。」「市内でもいち早く ICT を取り入れた授業を行い、校長先生をはじめ多くの先生方がコロナ禍の学習方法など検討してくれたことがよかった。」等の感想をいただいた。

以上のように、2020 年度 4 月から 12 月まで、ICT を活用して授業及び行事等の改善に取り組んだことについて、保

護者からも一定の評価をいただいたものとする。GIGA スクール構想により、福岡市もようやく一人一台端末が整えられつつある。今後は、ICTを「主体的・対話的で深い学び」を促進するツールとして、いっそう活用していきたい。

註

- 1) 文部科学省『学校における教育の情報化の実態等に関する調査』（2017年度）の「教育用コンピューター一台当たりの児童生徒数」によると、20政令指定都市の中で福岡市は最下位(13.5人)である。
- 2) 福岡市は2017年度以降、全中学校（離島を除く）に不登校対応教員を配置している。「不登校対応教員の手引き」（2018）によると、不登校にかかる組織的な取組や対応などが適切に行われているかどうかを点検し、タイミングよくアドバイスし、保護者や関係機関を交えた話し合いの場を設定するなどコーディネーターの役割を果たす教員としている。2020年度から、名称を教育相談コーディネーターと改め、教育相談全般に関わるコーディネーター役として①校内支援体制整備とコーディネート、②校内適応指導教室の運営、③登校支援、社会的自立に関する取組全体の業務を担っている。
- 3) 文部科学省『不登校児童生徒への支援の在り方について（別記2）不登校児童生徒が自宅においてICT等を活用した学習活動を行った場合の指導要録上の出欠の取扱いについて』（2019/10/25）を踏まえて、福岡市教育委員会は、『不登校児童生徒等が自宅においてICT等を活用した学習活動を行った場合の指導要録上の出欠の取扱いについて』（2020/7/29）を通知している。

参考文献等

- 文部科学省（2020/8/20）.『中央教育審議会初等中等教育分科会 新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会 第12回資料』
- 文部科学省（2018/10/30）.『学校における教育の情報化の実態等に関する調査 市区町村（設置者）別「コンピュータの設置状況』』
- 文部科学省（2020/4/21）.『新型コロナウイルス感染症対策のために小学校、中学校、高等学校等において臨時休業を行う場合の学習の保障等について』
- 文部科学省（2020/5/27）.『新型コロナウイルス感染症に対応した小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における教育活動の再開後の児童生徒に対する生徒指導上の留意事項について』
- 文部科学省（2019/10/25）.『不登校児童生徒への支援の在り方について（別記2）不登校児童生徒が自宅においてICT等を活用した学習活動を行った場合の指導要録上の出欠の取扱いについて』
- 佐藤昭彦（2020）.『教育委員会が本気出したらスゴかった』 時事通信社